

大学授業における学生の社会化過程の類型  
—個人化と社会化の相互関係に着目して—

西村美東士 mto@cue.tokushima-u.ac.jp (徳島大学大学開放実践センター)

キーワード: 自分らしさ、個人化、社会化、ピア、大学授業

## 1. 研究目的

1984年の臨時教育審議会発足以来、教育の世界では個性重視が叫ばれ、現代青年も「自分らしさ」を追い求めてきた。しかし、青少年が引き起こす「問題」が社会を大きく揺るがすたびに、規範意識の形成等による社会化が必要という議論が繰り返され、沸き起こっている。このような、個人化（個人としてよりユニークに深まる）と社会化（社会の一員として適応する）との二項対立の問題については、従来の切り口では解決の糸口さえ見出すことができない。

この問題は個人の側面にも深刻な影を落としている。一方では「友達から変だと思われたらもうおしまい」という言葉に象徴される「同化圧力」が指摘できる。他者との同質化というある種の社会化過程が、自己の異質性を犠牲にし、自己をかなぐり捨ててでも実現しなければならない重荷として意識される。しかも青少年の場合、同質化の対象はあくまでも「友達」であって、一般的に他者や社会ではないことに注意しておきたい。他方では、「もっとも自分らしくいられるところ」としての自分好みに改造した自分の部屋（マイルーム）に象徴される「個別化圧力」が指摘できる。「マイルーム」は対自（自分と対面）の重要な場でもあるが、他者や社会との関わりがうまくいかないまま、対自だけで自己完結させようとする、「自分らしさ」は十分なものと感ぜられなくなってしまう。

これに対して、自分らしさは、他者や社会との関係のなかで生まれ、変容し、また、確認されるものと考えられる。したがって、「私は社会に対して何がしたいのか」という願望を自覚し、「偽」の部分（自分にとっての）を修正し、しかも、他者や社会のなかでも有効に機能するよう願望の「非現実」の部分（社会にとっての）を修正することが重要である。本研究では、ピア・コンセプト（同輩意識）や「みんな主義」の問題点の発見、対自・対他の気づきの循環などのこれまでの研究成果に基づき、学生の自己への気づきの深まりと社会への適応や主体的関与との相互関係を大学授業の現場から検討し、その類型を明らかにする。このことにより「自分らしさ」を追い求めるがあまりの現実不適応のゲームから脱却し、個と社会の新しい関係を見出すための示唆を得ることができよう。

本研究の仮説としては、「自己への気づきの深化及び個人化と、社会化とは、適切な指導のもとに相互補完的な関係が成立する」を設定する。

## 2. 研究方法

授業における教師のコメント、ワークショップの成果、学生の発言の変容などを記録し、あわせて、質問紙調査を行う。研究対象とする授業は次のとおりである。人数はいずれも今年度。過去2年の同授業の結果も活用して調査対象件数を補強する。さらに今後は各人の個人化、社会化の現状をプロットできるスケールを用意し、観察、調査、面接を進める。

### (1) 教育学「大学・市民・ボランティア」

半期、全学1年54人。授業方法はワークショップなどによる学生参加・参画型とし、学部の異なる他の学生と知り合い、協働して課題を解決する。そのため、つねに相手と意見を述べあったり、相手といっしょに何かをまとめたりする。その人なりに人前で自分の見解を述べ、自分とは異なる他者を受け入れ、他者と協働して成果をまとめる力を養う。

### (2) 情報科学「コンピュータ入門」

半期、工学部夜間主1年27人。授業は、パソコン初心者、パソコンの諸機能をひととおり使えるようになるための演習を中心とする。演習の課題としては「自分らしく生きる」ことを取り上げ、そのことについて受信し、情報を収集する。さらに、それらを編集したり、自分の意見を発信したりすることによって、コミュニケーション能力を身につける。

## 3. 結果

### 3-1 「大学・市民・ボランティア」の授業に表れた学生の社会化に関する認識

本年度第1回標記授業において、「もし宇宙に他者がいなければ、自分らしさはもっともよく守ることができるということになってしまうのか」という教師からの「揺さぶり」の発問ののち、「自分らしさを守り育てること、社会性を身につけることはどういう関係にあるか」について受講者54人の文章表現を提出させ、集約した。翌週、その中からもっとも心をひかれた回答を1人につき1つ選ばせた。1票以上得票した20件のうち、表1のとおり4件が4票以上得票した。初日の教師の誘導にも関わらず、01が1番人気を占めている。

表1 「自分らしさを守り育てることと、社会性を身につけることの関係」人気回答ベスト4

| No | 票数 | 記 述 内 容 要 旨                                                                                            | 類型                 |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 01 | 8  | 「自分らしく生きたい」と思っている今その全てが「自分らしさ」。社会性が身に付いていてもいなくても、それがそのまま「自分らしさ」。言葉に振り回されてはいけない。結局自分自身で認めるかどうかの問題。      | I<br>主観的自分らしさ優先型   |
| 02 | 5  | 他人と違う行為や言動で仲間から外されるという恐怖があって自分の意見を言えない。意思を押し通そうとすれば「協調性がない」と煙たがられる。自分らしさを守り育てること、社会性を身につけることは相反する。     | II<br>同化圧力としての社会化型 |
| 03 | 4  | 自分らしさを守り育てることは、社会性を身につけることの中に含まれる。社会性を身につけた上で、社会に受け入れられる自分らしさじゃないと価値がない。両者は同時に並行して行われなければならない。         | III<br>社会への紐込まれ必然型 |
| 04 | 4  | 自分らしさは、人と接することでさらに磨かれる。健全な両者を持つということは他者へも良い刺激となり、再び自分へつながる。よってこれら2つの関係は、お互いに盛りたてあう関係にある。木と根っこのようにも思える。 | IV<br>社会と自己相互発展型   |

上位人気回答4件をそれぞれ右列の類型のとおり分類した。他に3票得票の3件、2票得票の5件は上の4分類に当てはまった。しかし、いずれの類型にも当たらない2票得票の1件を「O両方必要価値中立型」とした。これは「自分らしさを守り育てることと社会性を身につけることはバランスが重要」とする回答であった。他に7件が1票を獲得した。

### 3-2 社会化の類型（モデル図）

以上の5類型を、自分らしさの位置付け方及び能動的／受動的の2軸によって図1のように整理した。

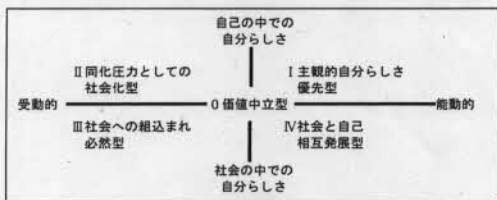


図1 社会化の類型

各類型における社会化の特徴や問題点については、それぞれ次のように推察される。I 自己を守ろうとする純潔さゆえに、組織や社会に対しては「仮所属」になりがち。II 表面上は外部からの同化圧力に屈服した形をとり、主体的には社会に関わらない恐れがある。III 過度に社会に適応しようとし、組織や社会になじめない自他の個性については否定しがち。IV 実際に自分らしさの危機に陥ったときに、それを認めようとしなかったり、挫折したりする恐れがある。

### 4. まとめ

考察からは、それぞれの類型ごとに問題を抱えており、望ましい社会化のための近道や、ましてや普遍的な「唯一の道」は期待できないと考えられる。一人一人が一連のプロセスのなかで揺れ動き、そのときどき判断していく性質のものといえよう。IIやIIIをスタートとしてIやIVへという流れは考えられるが、その場合の平行、クロス、さらには逆流の流れをわれわれはより詳しく把握する必要がある。発表では、「コンピュータ入門」の授業や質問紙調査の結果もあわせて、学生の社会化の類型をさらに詳しく確かめ、仮説の妥当性を検討したい。

### 【文献】

- (1) 西村美東士、「コンピュータを導入したワークショップ型授業の実践—『自分らしさ』の発展としての他者との関わり指導の経過から」、大学教育学会『第23回大会発表要旨集録』, pp.168-169, 2001.
- (2) 西村美東士、「ワークショップ型授業の構成要素とその効果—学生の自己決定能力を高める授業方法」、大学教育学会『大学教育学会誌』22巻2号, pp.194-202, 2000.
- (3) 西村美東士、『産しの生涯学習—ネットワークのあじわい方とはぐくみ方—』, 学文社, p161, 1997.